

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第1区分
 【発行日】平成27年7月2日(2015.7.2)

【公開番号】特開2014-165160(P2014-165160A)
 【公開日】平成26年9月8日(2014.9.8)
 【年通号数】公開・登録公報2014-048
 【出願番号】特願2013-38253(P2013-38253)
 【国際特許分類】

H 0 1 H 50/64 (2006.01)

H 0 1 H 51/12 (2006.01)

H 0 1 H 50/54 (2006.01)

【F I】

H 0 1 H 50/64 G

H 0 1 H 51/12 A

H 0 1 H 50/54 R

【手続補正書】

【提出日】平成27年5月15日(2015.5.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

一端が筐体の外側に露出するように配設された二組の固定接触子側端子金具及び可動接触子側端子金具、一端が上記可動接触子側端子金具の他端に固着されると共に他端にそれぞれ可動接点が設けられた二組の可動接触子、一端が上記固定接触子側端子金具の他端に固着されると共に他端にそれぞれ固定接点が設けられた二組の固定接触子、上記筐体に内蔵された釈放形電磁石とこの釈放形電磁石の動作で往復動する可動子とを有するアクチュエータ、及び中央部に上記可動子を取り付けられると共に上記可動子の往復動時に両端部で上記二組の上記可動接点と上記固定接点とを閉成、開離するクロスバーを備え、上記クロスバーには、上記可動子の中心軸を対称とする両側に、上記可動子の往動時に、上記可動接触子と係合してこれを押し下げ上記可動接点と上記固定接点とを同時に閉成する可動接触子押圧用係合子と、上記可動子の復動時に、上記可動接触子と係合してこれを引き上げ上記可動接点と上記固定接点とを同時に強制的に開離する可動接触子開離用係合子とをそれぞれ設け、且つ、上記可動子に対する上記可動接触子押圧用係合子との離間距離、及び上記可動子に対する上記可動接触子開離用係合子との離間距離をそれぞれ均等に設定したことを特徴とする電磁リレー。

【請求項2】

上記可動接触子は、上記可動接触子側端子金具の側端部に、上記可動接触子押圧用係合子による押し下げ作動時に接点閉成動作の支点となる第1支点が設けられると共に、この第1支点と上記可動接触子開離用係合子との間に、この可動接触子開離用係合子による引き上げ作動時に接点开離動作の支点となる第2支点が設けられていることを特徴とする請求項1に記載の電磁リレー。

【請求項3】

上記可動接触子押圧用係合子及び上記可動接触子開離用係合子は、上記可動接点の中心を通る上記可動接触子の長手方向の線上に沿って配置したことを特徴とする請求項1又は

請求項 2 に記載の電磁リレー。

【請求項 4】

上記第 1 支点と上記可動接触子押圧用係合子との距離に対し、上記第 2 支点と上記可動接触子開離用係合子との距離を、同等以上の長さに設定したことを特徴とする請求項 2 に記載の電磁リレー。